

第76回企画展

昔の肥やしと使い方

～ 肥培管理 ～



平成30年4月8日(日)～6月28日(木)

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

現代の作物栽培は作物に適した肥料設計により化学肥料が施され栽培されていますが、化学肥料が無かった昔は、焼畑耕作により自然にある草木を焼いた肥料や、家畜を飼うことにより生じた厩肥や生活の中で得た下肥（人糞尿）、草木灰など、自給的な材料を素にして肥料としていました。

近世には肥料の扱い方を解説する『耕作噺（陸奥）』（中村喜時 1776 年作）や、軽米町における農耕法の『軽岳耕作鈔』（淵澤圓右衛門 1847 年～1862 年作）があり、凶作や飢饉への対応を背景にした畑作農書となっています。

企画展では藩制時代に書かれた『軽岳耕作鈔』の穀物栽培における作業の時期的管理法を紹介し、この時代から昭和 30 年代まで続いていた厩肥と下肥を組み合わせた肥やしやしの施肥法を学ぶことができる場とします。



岩手県立農業ふれあい公園

農 業 科 学 博 物 館

北上市飯豊 3-110 TEL:0197-68-3975

開館時間／9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日／月曜日(月曜日が祝日の場合は直後の平日)

入館料／一般300円 学生140円 高校生以下は無料

団体割引等(20名以上)あります

駐車場／大型バス12台 普通車240台 身障者専用5台